

平成 17 年度修学旅行の実施状況並びに
「修学旅行における危機管理」アンケート
調査集計結果の分析と考察

平成 17 年度研究委員会

研究委員長	治田 正	(沼田市立沼田西中学校長)
研究委員	金澤 眞理	(日上市立中里中学校長)
	柴 久子	(小山市立絹中学校長)
"	富田 政博	(行田市立埼玉中学校長)
"	種田 斉吾	(松戸市立小金北中学校長)
運営委員	會澤 勤	(水戸市立石川中学校長)
"	鈴木 希一	(上河内町立上河内中学校長)
"	秋池 功	(鴻巣市立吹上北中学校長)
"	森 收	(流山市立南流山中学校長)
事務局	久保 行正	(財団法人 全国修学旅行研究協会理事)
"	吉野 憲二	(" " 部長)

平成 17 年 1 1 月 1 日

関東地区公立中学校修学旅行委員会
(事務局 財団法人 全国修学旅行研究協会)

調査研究のねらい

学校では新しい教育課程の下で、これまで以上に創意工夫に満ちた特色ある教育活動が展開されています。特色ある教育活動では、学習の場や、指導者の幅を広げ、学校外での体験活動や地域の人材を活用した授業を進め、地域社会の教育力の活用が図られている。

一方、「安全で安心して生活できる場」であったはずの学校では、不審者の侵入、地震、台風、水害、テロや感染症等自然災害や社会的災害に対する危機管理体制の確立が急務となっている。中でも、学校を離れて学習活動をする修学旅行は、さらに厳しい条件下での活動といえる。今までの教育に関する事件・事故は、個人的な不手際を中心として責任が問われることが多かったが、最近では、個人的問題以上に公教育を支える制度やシステム、管理者への信頼の問題として責任が大きく問われるようになってきている。

こうした状況の中で、各学校の修学旅行の実施状況を継続調査するとともに、修学旅行の危機管理についてアンケートを実施し、関東地区の全体把握を中心にまとめ、各学校の参考に供するとともに、「安全で安心して実践できる修学旅行」の研究資料として、修学旅行の質的向上につながることをねらいとして研究を進めた。

研究の視点と方法

研究の視点

1 平成17年度修学旅行の実施の概況に対する実態調査

- ・ 方面、宿泊地、旅行費用等
- ・ 修学旅行における特色ある体験学習の実施
(体験学習の内容、学習形態、費用等)

2 修学旅行における危機管理

- ・ 事前に対応すべき事項、旅行中の事故の対応、事後の対応、全体を通して

研究の方法

アンケート調査

調査対象 関東地区公立中学校全設置校
調査時期 平成17年6月中旬～7月上旬
回答校数 1246校(回答率90.0%)
有効回答校数 1239校

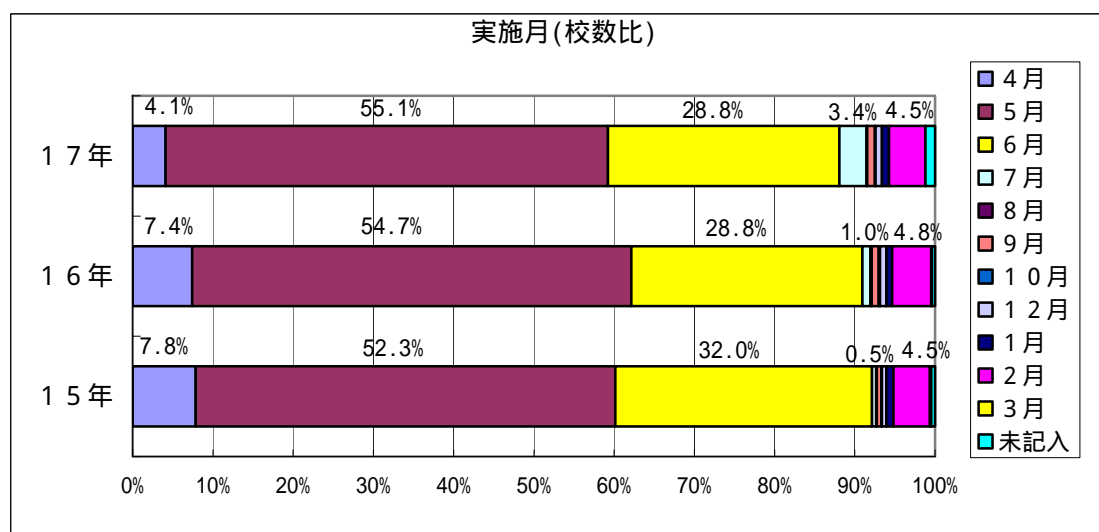
(有効回答校数は、複数校連合での実施は1校とし、修学旅行を実施していない学校は除いた校数)

データの集計と分析及び考察

アンケート実態調査の結果から見た現状

1 修学旅行実施の概況について

【実施月】



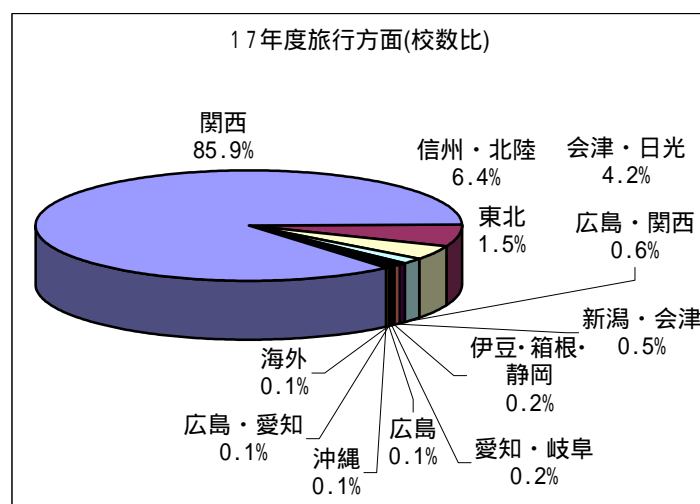
平成17年度は、5月の実施校が55.1%(683校)と最も多く、6月の実施校28.8%(357校)、4月の実施校4.1%(51校)を合すると88%(1091校)ではば春季に集中している。この傾向は毎年変化はない。東海道新幹線の専用電車を利用する計画輸送では、本年度から4月の実施を取りやめた関係上、設定日が繰り下がり7月の実施校が3.4%(42校)と増えている。4月の実施校4.1%は栃木県(32校)と茨城県(14校)・千葉県(5校)であった。2月の実施校4.5%は埼玉県が52校と最も多く、千葉県3校、栃木県1校での実施もあった。12月・1月の実施校を合すると12月から2月の実施校は6.2%(77校)と例年と変化はない。

【実施日数】

- ・2泊3日がほとんどで99%を占める。群馬県で7日間の長期旅行が1校(海外・夏休み)、千葉県で1泊の学校が4校ある。

【旅行方面】

- ・例年どおり、関西方面が最も多く、85.9%(1057校)を占めている。
- ・今年は、愛知県で開催された2005年日本国際博覧会(愛・地球博)の見学を組み入れた旅行日程から、愛知県・岐阜県での宿泊を伴う実施校が0.3%(4校)あった。実際には、愛・地球博見学を組み入れた学校数はもっと多いが、宿泊地は従来の関西地区のため旅行方面として関西と回答した学校が多かったものと推測される。
- ・新しい旅行先として、沖縄が1校(栃木県)ある。



【宿泊地】

各府県内の主な宿泊地

青 森：青森、大鰐、尾上

岩 手：花巻、湯田、雫石、一関

宮 城：松島

山 形：蔵王、上山、天童、高畠、山形

福 島：会津若松、猪苗代、裏磐梯、会津高原

栃 木：日光

神奈川：箱根、横浜

静 岡：静岡、伊東、妻良

長 野：上諏訪・原村、乗鞍高原・上高地、穂高、松本、白馬・大町、車山・蓼科・女神湖・
白樺高原、飯田・木曾福島・妻籠

山 梨：河口湖、小淵沢

新 潟：魚沼、阿賀

岐 阜：高山、長良川、昼神、平湯

愛 知：名古屋

滋 賀：大津、守山、彦根

京 都：京都、宇治、美山、亀岡

大 阪：大阪

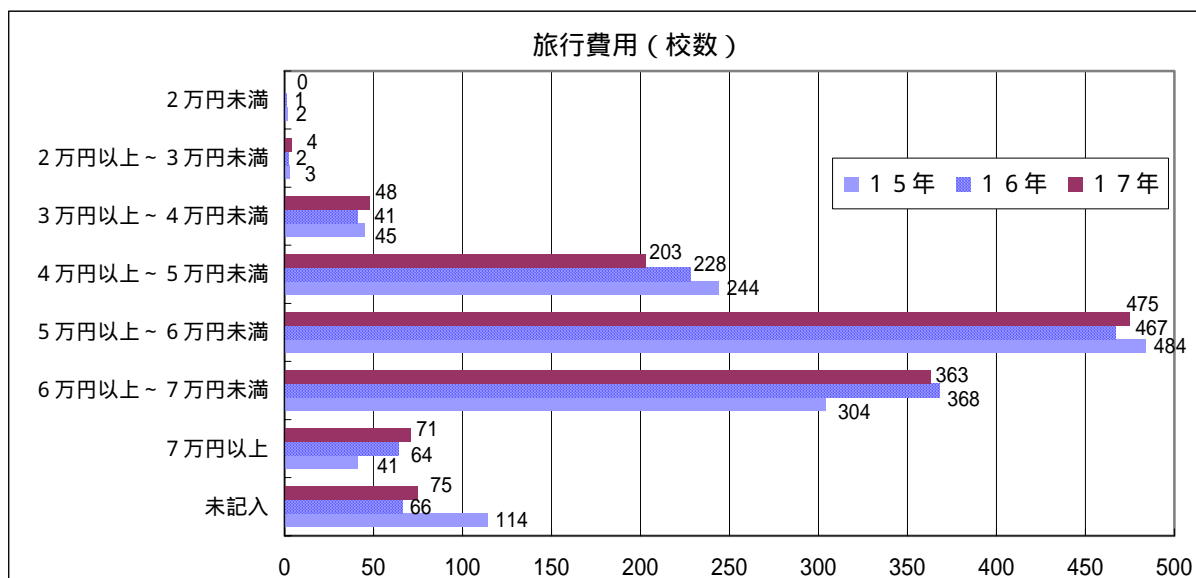
兵 庫：神戸、淡路島

奈 良：奈良、吉野

広 島：広島、宮島

沖 縄：未記入

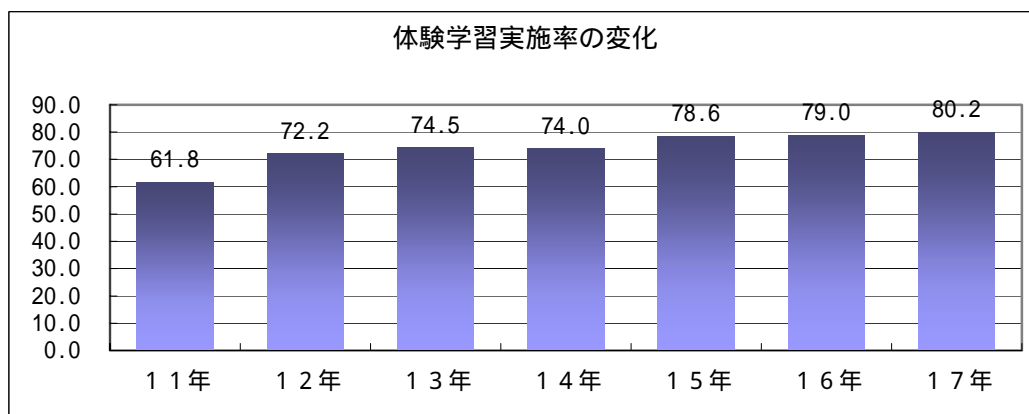
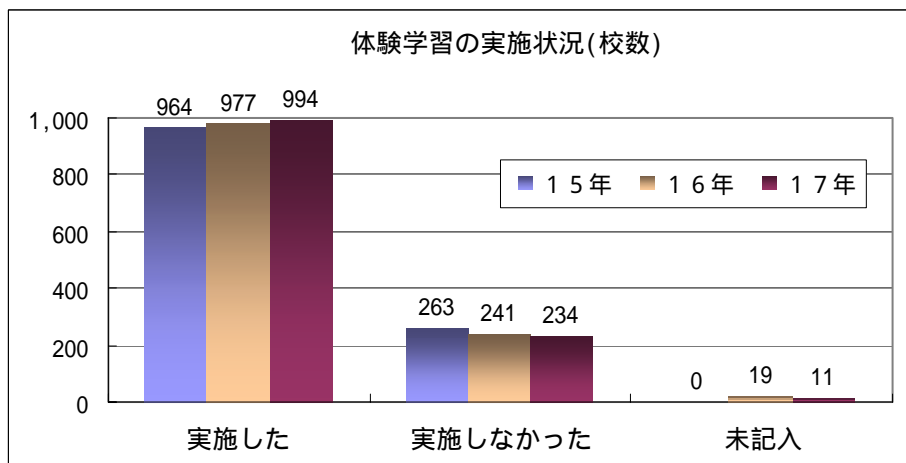
【旅行費用】



- ・旅行方面や体験活動、班別活動費などの条件により、差がある。
- ・全体に5万円台が最も多く、7万円以上も毎年その比率は高くなっている。

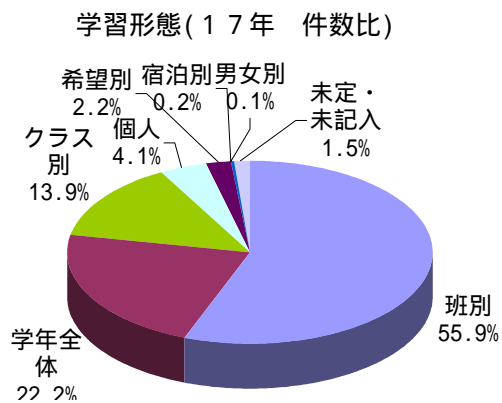
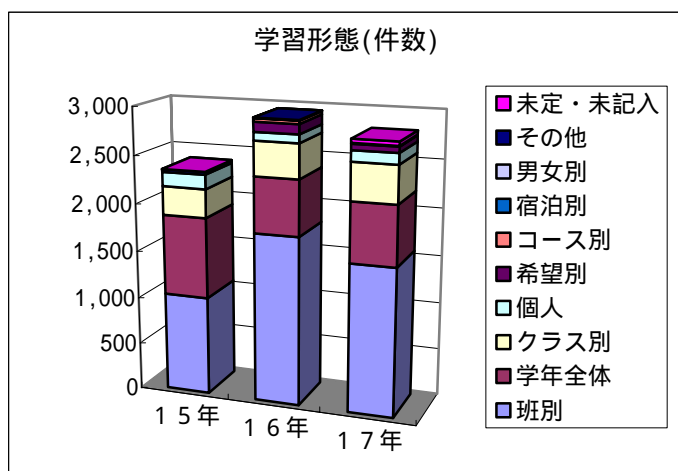
2 修学旅行での体験学習について

【体験学習の実施状況】

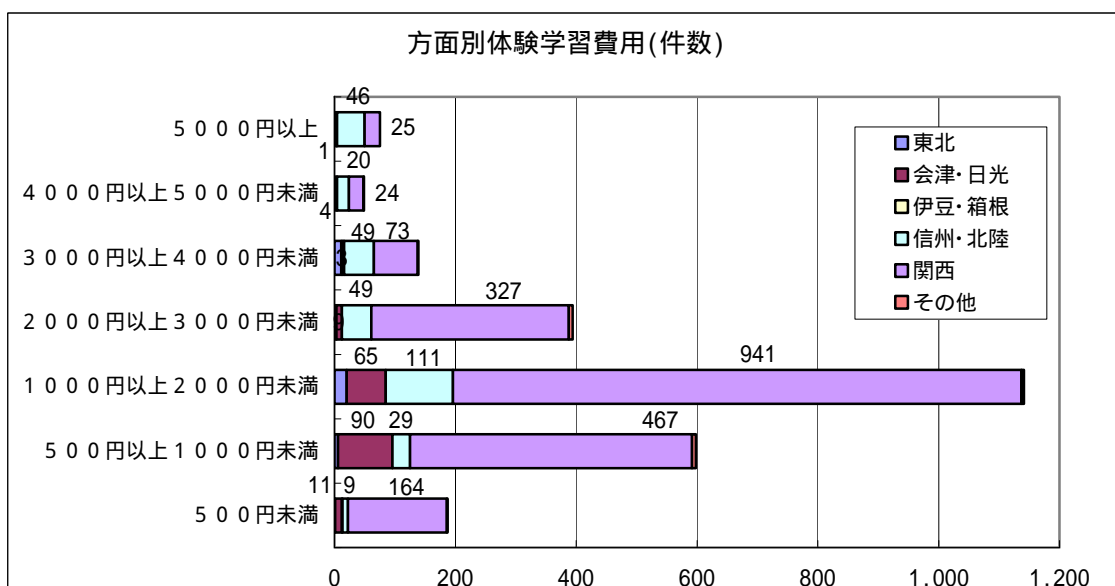
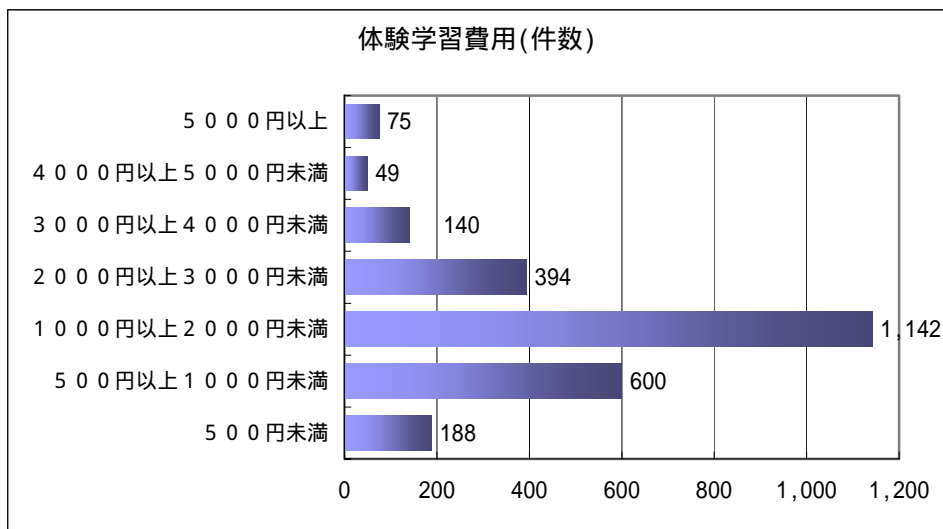


- ・体験学習の実施は毎年増加の傾向にある。
- ・今後も各学校が、創意工夫を發揮しながら体験活動の充実と実施傾向は続くと思われる。

【体験学習の学習形態・内容】

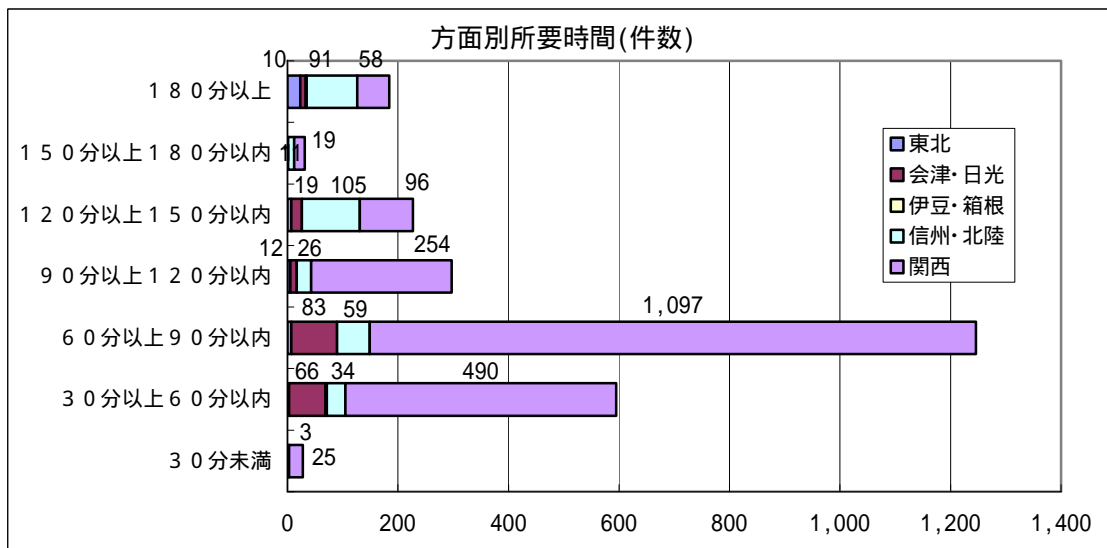
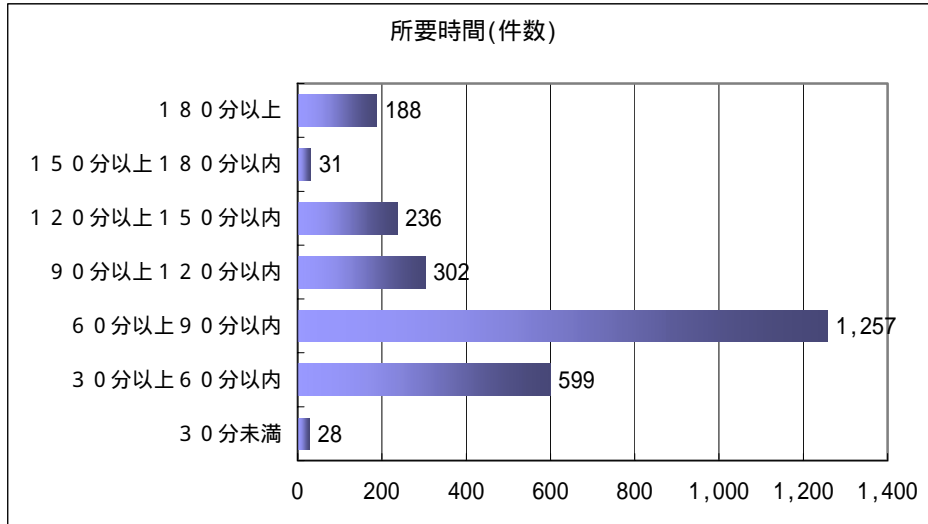


【費用】



- ・全体では、1,000円以上2,000円未満が44.1%と最も多い。500円以上3,000円未満では82.5%になる。昨年と大きな変化はない。
- ・活動内容によって差があるが、関西では47%が1,000円以上2,000円未満、500円以上3,000円未満では86%となる。
- ・信州では、1,000円以上2,000円未満が35.6%、500円以上3,000円未満では60.3%。5,000円以上(自然・スポーツ体験、ラフティング等)が14.7%と他の方面より比率が高い。
- ・東北では1,000円以上2,000円未満が45.5%、会津・日光では、同35.5%であるが、500円以上1,000円未満が49%と最も多い。

【所要時間】



- ・ 全体では、60分以上90分以内が47.6%と最も多く、ついで30分以上60分以内が22.7%である。昨年と比べ大きな変化はない。
- ・ 方面や活動内容によって差がある。農業体験が多い東北では3時間以上が51%半数を占める。信州では農業・スポーツ体験が多く、それに費やす時間も63.5%が2時間以上と多くなっている。

【主な体験学習の実施内容】

- ・ 全体に、工芸品・食品・陶芸等の創作活動が多いが、方面によってその特色は分かれる。
- ・ 関西では舞子さんとの語らいや着物着付け等の伝統文化、能・狂言といった伝統芸能に触れる割合が高くなっている。(7.6% 9.1%)
- ・ 東北、信州では、農業民泊での農業体験や地域の豊かな自然を体感させる自然・スポーツ体験が多い。

主な体験学習の実施内容

(件数・%)

分類	面	主な体験学習内容	旅行方		東北		新潟・会津・日光		伊豆・箱根・横浜・静岡		信州・北陸		関西、広島		合計		
			件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	
歴史文化体験	歴史文化遺産	史跡名所めぐり、歴史、文化財等の調査、検証	1	1.8			1	20.0	1	0.3	12	0.6	15	0.6			
	生活歴史文化遺産	法話・座禅・止観・写経	1	1.8	13	6.2			2	0.6	406	19.4	422	15.7			
		民話、京ことば・方言・しきたり									2	0.1	2	0.1			
		伝統芸能(雅楽、京舞、能・狂言、白拍子、上方落語、人形浄瑠璃)									54	2.6	54	2.0			
	伝統文化	舞妓鑑賞・舞妓さんとの語らい									48	2.3	48	1.8			
		茶道・香道体験・座禅・法話									33	1.6	33	1.2			
		舞妓体験(変身)、着物着付・和装体験散策									54	2.6	54	2.0			
	創作	工芸品(金箔細工・京扇子・念珠・花かんざし・組みひも・匂い袋・象嵌・ガラス細工ほか)	3	5.3	43	20.4			83	25.5	434	20.7	563	20.9			
					20	9.5			5	1.5	3	0.1	28	1.0			
					28	13.3			5	1.5			33	1.2			
		食品(やつはし・京漬物・おぼんざい・ゆば・おやき・五平もち・七味唐辛子・豆腐・味噌・そば・パン・まんじゅう・笹だんご・ケーキ・バター・アイスクリームなど)	16	28.1	57	27.0			87	26.8	389	18.6	549	20.4			
			陶芸(清水焼・京七宝、深山焼・成島焼・平清水焼・慶山焼・木郷焼・赤膚焼)、絵付け	7	12.3	17	8.1			8	2.5	132	6.3	164	6.1		
												230	11.0	230	8.5		
			友禅染(扇・ハンチチ・巾着・Tシャツ・のれん・ランチョンマットほか)、草木染め、紅花染め、西陣織	1	1.8	5	2.4			10	3.1	205	9.8	221	8.2		
					3	1.4					35	1.7	38	1.4			
和とじ製本・和紙作り・紙漉き・立体和紙・アート和紙											7	0.3	7	0.3			
小計	29	50.9	186	88.2	1	20.0	201	61.8	2044	97.5	2461	91.3					
社会体験	一般社会・職場体験	伝統工芸職場体験、仏師体験									5	0.2	5	0.2			
		商店街(売り子・店員)、駅員体験、旅館業、現代芸能文化、テーブルマナー、朝市手伝い	5	8.8	5	2.4			2	0.6	10	0.5	22	0.8			
		私のしごと館(職業・モノづくり体験)									7	0.3	7	0.3			
	福祉・ボランティア	手話講座									1	0.05	1	0.04			
		清掃・美化ボランティア									3	0.1	3	0.1			
	平和学習	語り部の講話(平和学習)・交流会									5	0.2	5	0.2			
		異文化体験(コリアタウン)、京都に行こう「国際交流」									2	0.1	2	0.1			
	震災学習	人と防災未来センター(阪神淡路大震災経験者の講話など)									1	0.05	1	0.04			
	生活文化	農業体験(農家民泊、田植え・りんご摘果・酪農・養豚・山菜取り、ミツバチ蜂場・ハーブ園・茶摘みなど)	17	29.8	7	3.3			18	5.5	2	0.1	44	1.6			
		林業体験							5	1.5			5	0.2			
漁村体験(アジの開き・投網・仕掛け、地引き網)								3	60.0			3	0.1				
小計	22	38.6	12	5.7	3	60.0	25	7.7	36	1.7	98	3.6					
環境保全・共生	自然環境	京都三山における「自然保護学習」、地域の人から学ぶ講和「わさびの育成と環境」「古い町並みの保存」など環境教育学習会						7	2.2	1	0.05	8	0.3				
交流	交流	大学との合唱交流								1	0.05	1	0.04				
自然・スポーツ体験	陸	スキー、ファンスキー、サマースノーボード、グレステンスキー	2	3.5	3	1.4			7	2.2			12	0.4			
		アドベンチャー	2	3.5	1	0.5			1	0.3			4	0.1			
		マウンテンバイク			1	0.5			15	4.6			16	0.6			
		ネイチャーハイキング・ナイトハイク							3	0.9	1	0.05	4	0.1			
		乗馬							8	2.5			8	0.3			
		鍾乳洞探検、リトルアドベンチャー			2	0.9							2	0.1			
		バターゴルフ、テニス、マレットゴルフ							3	0.9			3	0.1			
	海・湖・川	ラフティング・カヌー・舟下り、ヨットセーリング	1	1.8	3	1.4	1	20.0	30	9.2	10	0.5	45	1.7			
		渓流釣り・ルアー釣り			1	0.5			19	5.8			20	0.7			
	空	パラグライダー							6	1.8			6	0.2			
小計	5	8.8	11	5.2	1	20.0	99	30.5	13	0.6	129	4.8					
その他	愛知万博、雪かき	1	1.8	2	0.9					4	0.2	7	0.3				
合計	57	100.0	211	100.0	5	100.0	325	100.0	2,097	100.0	2,695	100.0					

*分類は、(財)全国修学旅行研究協会の「修学旅行における体験学習の分類」により仕分けした。

修学旅行の危機管理におけるアンケートについて

1. 危機管理アンケート調査の概要

調査依頼数 1,384校 回答校数 1,237校 回収率 89%

2. アンケート調査の考察

事前準備段階で危機意識を持たせること

- ・計画（細案）をもとに指導の徹底と職員の共通理解を重視している。また事前指導の徹底を図り、安全、マナー、健康、服装指導等を通して生徒自ら規律を守る意識を持たせる学校の姿勢が感じられる。
- ・職員の危機意識の徹底と行動マニュアルの整備をすることが分る。生徒には、自らを守ること、職員には万一の場合の行動マニュアルと両面から危機に備えていることが分る。
- ・危機情報の収集については、地域によって温度差が感じられる。例えば旅行の下見等実施している地域と業者から情報を得ている地域とに分かれる。

旅行中の危険防止策について

- ・安全体制の確立に各校とも留意しており、指導者の意識変革や生徒の意識を育成しようという流れは見られる。
- ・班別行動時の指導については、交通安全、他校とのトラブル、班の位置確認（GPS、PHS等）不審者対策等を重視していることが伺える。
- ・班別行動にタクシーを利用する学校が増えつつあるが、見学個所が増えることや生徒の安全については不安が多少緩和されることが期待できるが、修学旅行における生徒の主体性・自主性という面からの考察も必要ではないだろうか。

事故発生時の緊急対応について

- ・当然のことであるが、各校とも安全の確保と正確な情報の収集と責任者の判断および発信を重視している学校が多く見られる。
- ・安全確保では責任者の的確な判断と明確な指示が求められるが、二次災害や他生徒のケアも責任者として忘れてはならない。
- ・班別行動時の事故については、特に報告・連携が大切であるが、責任者の指示が正確に迅速に届くように、本部と現場との指示系統の明確化や万一に備えた危機管理マニュアルの作成が急がれる。
- ・連絡・連携では、大切なことであるが見落とされがちなことに生徒への説明を指摘していただいた学校があった。このことにより事実と異なる流言、うわさの一人歩きが防止できるのではないか。
- ・事後処理では、報告・連絡・対応は当然であるが、生徒の心のケアに配慮したいという学校も多かった。このことについては今後の留意事項であろう。

再発防止対策について

・計画の見直しを図り、原因を明確にする。特に、事故発生状況・原因を明確にし指導不足部分を改善して次に生かすことが大切である。また、事故が防止できたのか不可抗力なのか精査し決して教育活動を消極的にしない努力が必要であろう。

3. 早急に対応すべき事項について

危機管理対応マニュアル・危機管理体制（校外学習用）の作成および指導者の危機管理意識の高揚と生徒の危機意識と自己管理能力の育成。

事故に対する補償問題や事前の保険対策。

生徒の日常の規範意識の育成（日常の規範意識、ルールの遵守、5分前行動等）

気象や交通状況からの予定変更への対応（宿泊変更等）

4. アンケートを実施して

危機管理は当然のことではあるが、指導者一人一人が自覚して指導にあたることと生徒にも自己を守るという意識を育成することが大切であることを痛感した。また、規範意識の育成も旅行時だけでなく日頃より指導していく必要がある。

アンケートの数字には表れにくい事柄の中にいくつも参考になるものが見られた。例えば下見の必要性、食物アレルギーへの対応や心のケア等である。

危機意識と修学旅行の持つ楽しみ、また旅行の安全性と生徒の主体性という両面をどのようにとらえ修学旅行を計画するか各学校の取り組みに期待したい。

